

1月26日正午必着

明石春浦先生書



うんでんほくによろしく
雲天宜北戸
せきせんきくにみちうめたく
石泉盈掬冷

とうびやうせいほうにたり
塔廟似西方
さんじえだにみちかんばし
山實滿枝香

りんかそうことなく
林下僧無事
せきぼくとしんいんをとう
寂莫傳心印

こうきよくしてひまにながし
江清日正長
むんたすだわする
無言亦已忘

(羊士諤)

明石幸子書



みずきゆうなるもつきながさず
水急不流月 (緇林宝訓)

いかにはげしい流れでも 映じた月は動かない。
いかにはげしい世風に当っても本心は寂然不動。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

大雪満天地、胡爲仗劍遊
欲談心裏事、同上酒家樓
(鄭燮)

この大雪が天地に満つる時、何のために剣をたばさんで行くのである。——討入りではなく、いささか気持をほらそうとて、うちつれて料亭にのぼるとみえる。

雲林野思幽夢(倪瓚)

雲林野思幽夢

山林幽棲の感興。

兄弟相逢處、共是白眉垂
且喜太平世、日日醉如痴
(良寛)

兄弟相逢ふ処、共に是れ白眉垂る。
且らく太平の世を喜び、日々酔うて痴の如し。

兄弟ともに 会い見れば 眉毛も白く 垂れている。世の太平を 喜んで うま酒のんで 酔いしれる。

送僧還南海(李洞)

僧の南海に還るを送る 李洞

春往海南邊、秋聞半夜蟬
鯨吞洗鉢水、犀觸點燈船
島嶼分諸國、星河共一天
長安卻回日、松偃舊房前

春に海南の辺りに往き、秋に半夜の蟬を聞く
鯨は呑む、鉢を洗う水、犀は触る、灯を点せる船
島嶼、諸国を分ち、星河、一天を共にす
長安、却回する日、松は旧房の前に偃さん

山ねむる山のもとに海ねむるかなしき春の國を旅ゆく (若山 牧水)



三浦士岳先生書

半紙部規定課題A

1月26日正午必着

水前
流朝
楚楚

※作品には必ず落款を入れてください。

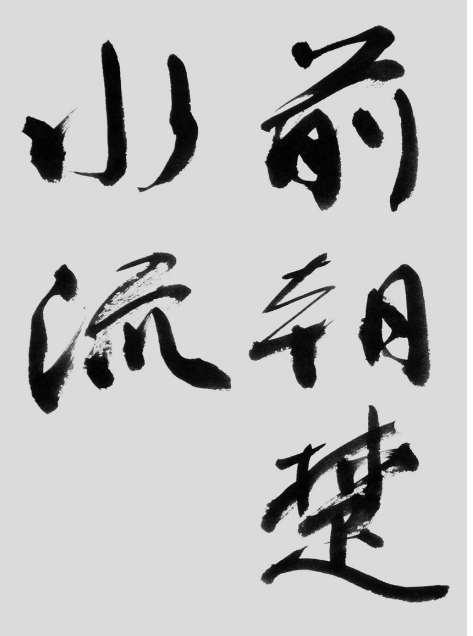
明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

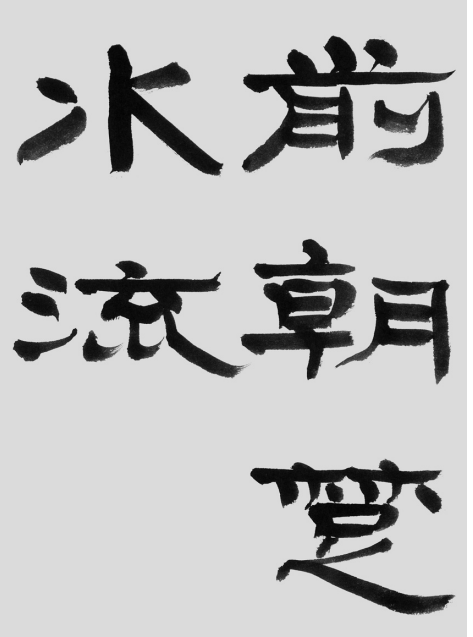
半紙部規定課題B

1月26日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



いにしえの偉人が一飯の恩義に感じ入ったという そのことはもはや千年のむかし
 年古りた墓は、樵人たちが知っているだけ かの時のままにここ楚の地の水は流れる
 行きずりの旅人が水際の蘋草を摘んで供え 杜鵑は山中の樹木に悲しく啼く
 春の草は年ごとに緑に茂る かの貴公子がかつて遊んだこの地に

漂母墓

劉長卿

昔賢懷一飯

茲事已千秋

古墓樵人識

前朝楚水流

渚蘋行客薦

山木杜鵑愁

春草年年綠

王孫舊此游

漂母の墓

劉長卿

昔賢一飯を懐く

茲の事 已に千秋

古墓 樵人識り

前朝 楚水流る

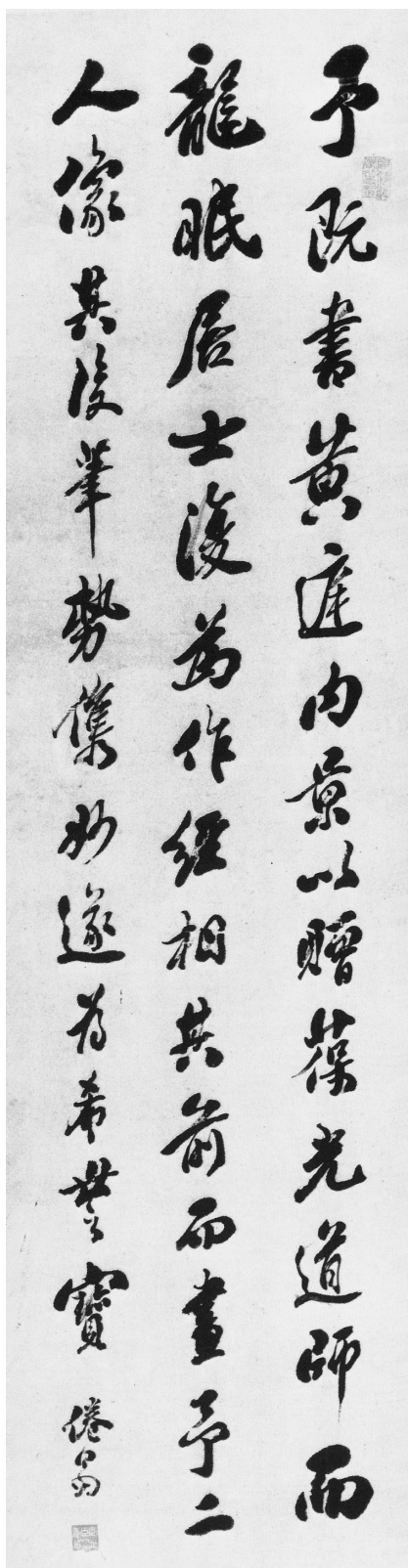
渚蘋 行客薦め

山木 杜鵑愁う

春草 年年緑なり

王孫 旧此に遊ぶ

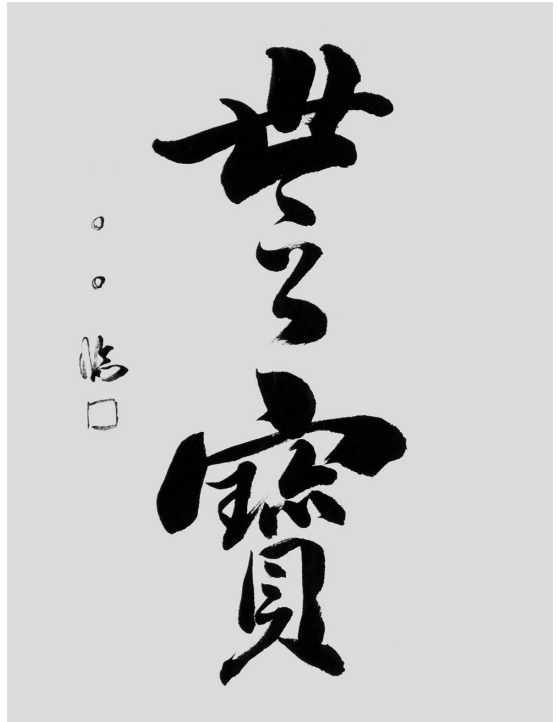
(出典)
 朝日新聞社刊
 「三体詩」下より



予既書黃庭內景。以贈葆光道師。而龍眠居士復爲作經相其前。而畫予一人像其後。筆勢儻妙。遂爲希世之寶。倦翁。



黄庭内景。以贈葆光道師。而龍眠居士復為作經



世之寶

清包世臣・行書立幅

包世臣（一七七五）安徽江甯の人、字は誠伯または慎伯、倦翁と号し、慎斎また小倦遊閣外史ともいい、生地に因んで安吳先生ともいわれた。嘉慶一三年（一八〇八）の挙人。鄧完白に師事して金石書法を研鑽し、秦漢をきわめて碑派の雄となり、書・篆刻ともに一世に推重され、また詩文もよくしたといわれている。

逆入平出の用筆法を提唱し、書の理想とする境地を示すのに気満の説を掲げ、その実現にはこの逆入平出法でなければならぬとしばしば説いていたとされる。

この書はこの法を見事に実現させているといわれるが、この際、逆入平出法の極意を探求するべきか…。（春濤）

1月26日正午必着

教育部毛筆

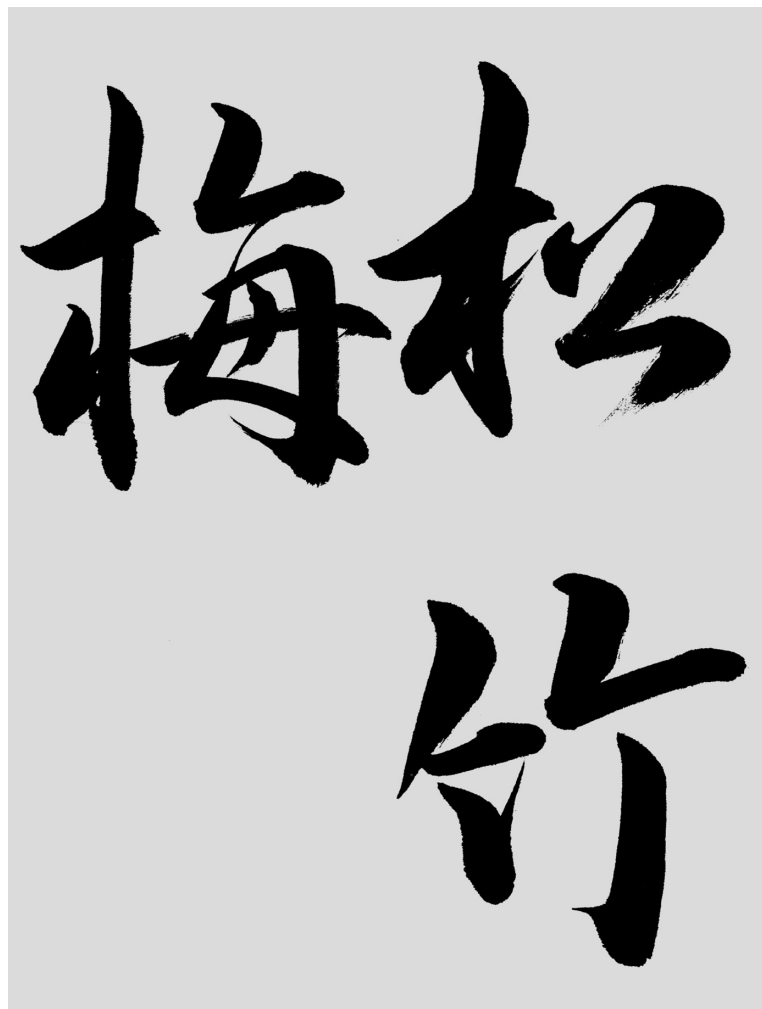


かく
鶴

うん
雲

中学一年

雨宮春聲先生書



しょう ちく ばい
松 竹 梅

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



かど
門

まつ
松

小学五年

榎戸春龍先生書



もく
目

ひょう
標

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月26日正午必着



こ
古

こん
今

小学三年

藤田幸春先生書



はつ
初

そら
空

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

こ ま 小学一年・幼年



森戸春濤書

休 む 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

山に初日が登る	雪をいただいた富士
---------	-----------

小学五年

新しい年をむかえ心	構えを新たにしよう
-----------	-----------

小学六年

初光を浴びて東の	空に浮かぶ五色雲
----------	----------

中学

輝かしい新年を迎え	同様の清福を祈ります
-----------	------------

一般(級位)

わびぬれば今はた同じ	難波なるみをつくしても逢はむとぞ思ふ
------------	--------------------

わびぬれば今はた同じ 難波なるみをつくしても逢はむとぞ思ふ (小倉百人一首・元良親王)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

で	ね
	こ
ま	が
る	
く	こ
な	た
る	つ

幼年

と	年
ど	が
き	ゆ
ま	う
し	び
た	ん
	が

小学一年

た	お
こ	正
を	月
上	の
げ	
よ	空
う	に

小学二年

母	お
か	年
ら	玉
も	を
ら	
つ	父
た	と

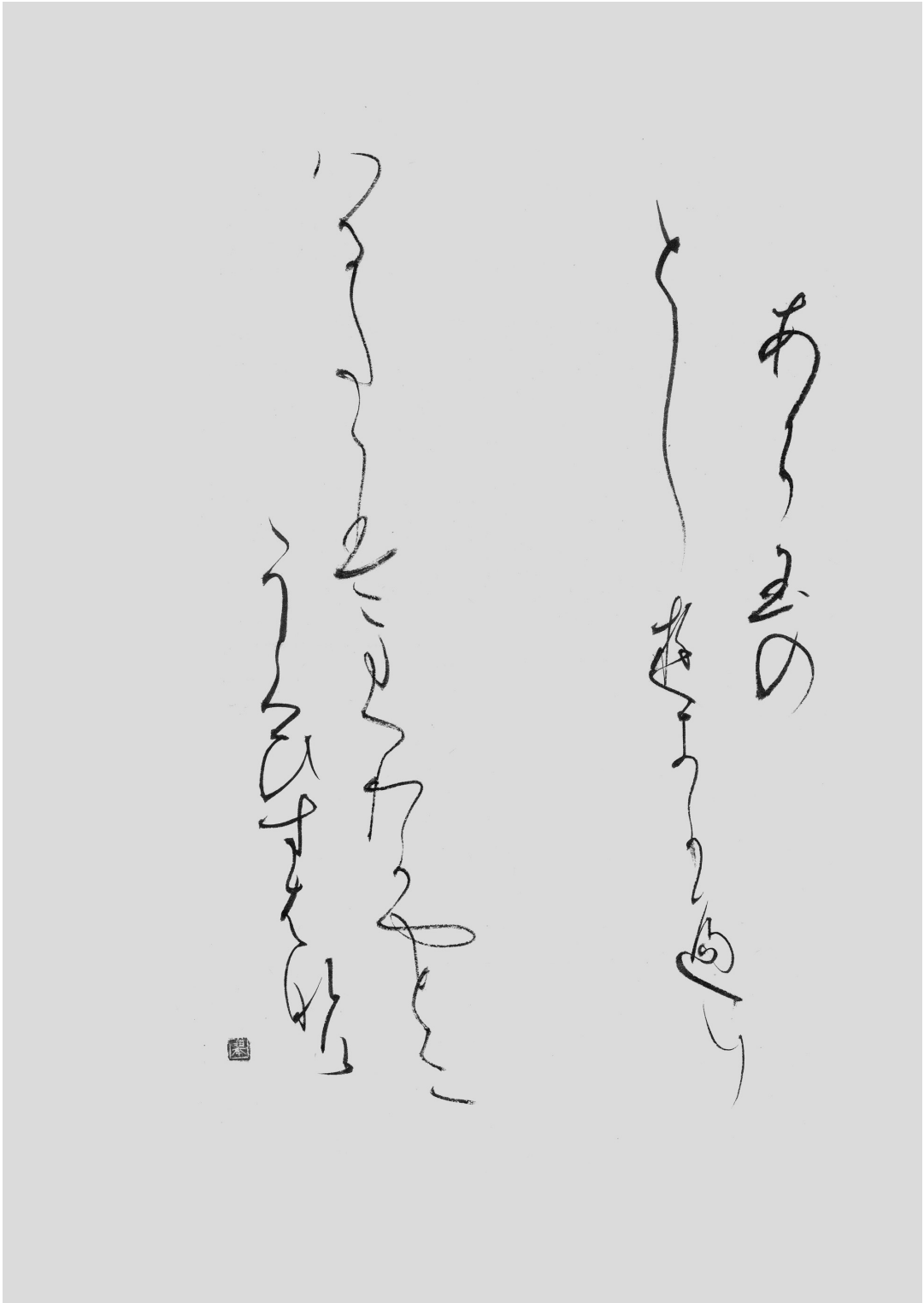
小学三年

ら	新
さ	し
れ	い
た	初
山	日
や	の
川	光
	に
	て

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

あら玉の としゆきかへり
遊支可遍 八はるたゝば
盤万 まづわがやどに
二 うぐひすはなけ
者那介 (大伴家持)